ガバメントAI：国内LLM 7モデルの選定と社会実装へのロードマップ

選定の概要と7つの国内モデル

15件の応募から7モデルを厳選

国内開発、説明責任、安全性、運用要件などの厳しい基準をクリアしたモデルが選定されました。

性能とガバナンスの「二兎」を追う評価

精度だけでなく、ガバメントクラウドでの動作や法令遵守、ハルシネーション対策が採否の鍵となりました。

tsuzumi 2
（NTTデータ）

1GPUで動作可能なオンプレミス志向の設計

PLaMo 2.0 Prime
（Preferred Networks）

開発コスト低減と評価指線の遏明性が特徴

Llama-3.1-ELYZA-JP
（KDDI / ELYZA）

海外ベースモデルを日本語に高度に最適化

実装ロードマップと今後の展望

2026年8月
国内LLMの試用評価開始

18万人規模の政府職員が利用する「濃内」環境で、実務での実用性を検証します。

2027年4月
有償調達による社会実装

評価結果に基づき、優れたモデルを政府が正式に調達し、国産AIの安定需要を創出します。

行政特有の「説明責任」を重視

2027年1月の評価公姿が、国内AIエコシステムの新たな比較標準となる見込みです。